

第 10 節 植物による大気質のモニタリング

第 1 項 調査概要

大気汚染指標種であるウメノキゴケ等について、施設供用後における本種の生育状況のモニタリング調査を実施した。

1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査は表 10 - 1 に示したとおり春季から冬季にかけて各季 1 回の計 4 回実施した。

表 10 - 1 調査年月日及び調査内容

調査時季	調査年月日	調査内容
春 季	平成 19 年 4 月 20 日	ウメノキゴケ等の生育状況調査
夏 季	平成 19 年 7 月 30 日	
秋 季	平成 19 年 10 月 25 日	
冬 季	平成 20 年 1 月 7 日	

1 - 2 調査場所

調査場所は図 10 - 1 に示した 5 地点とした。

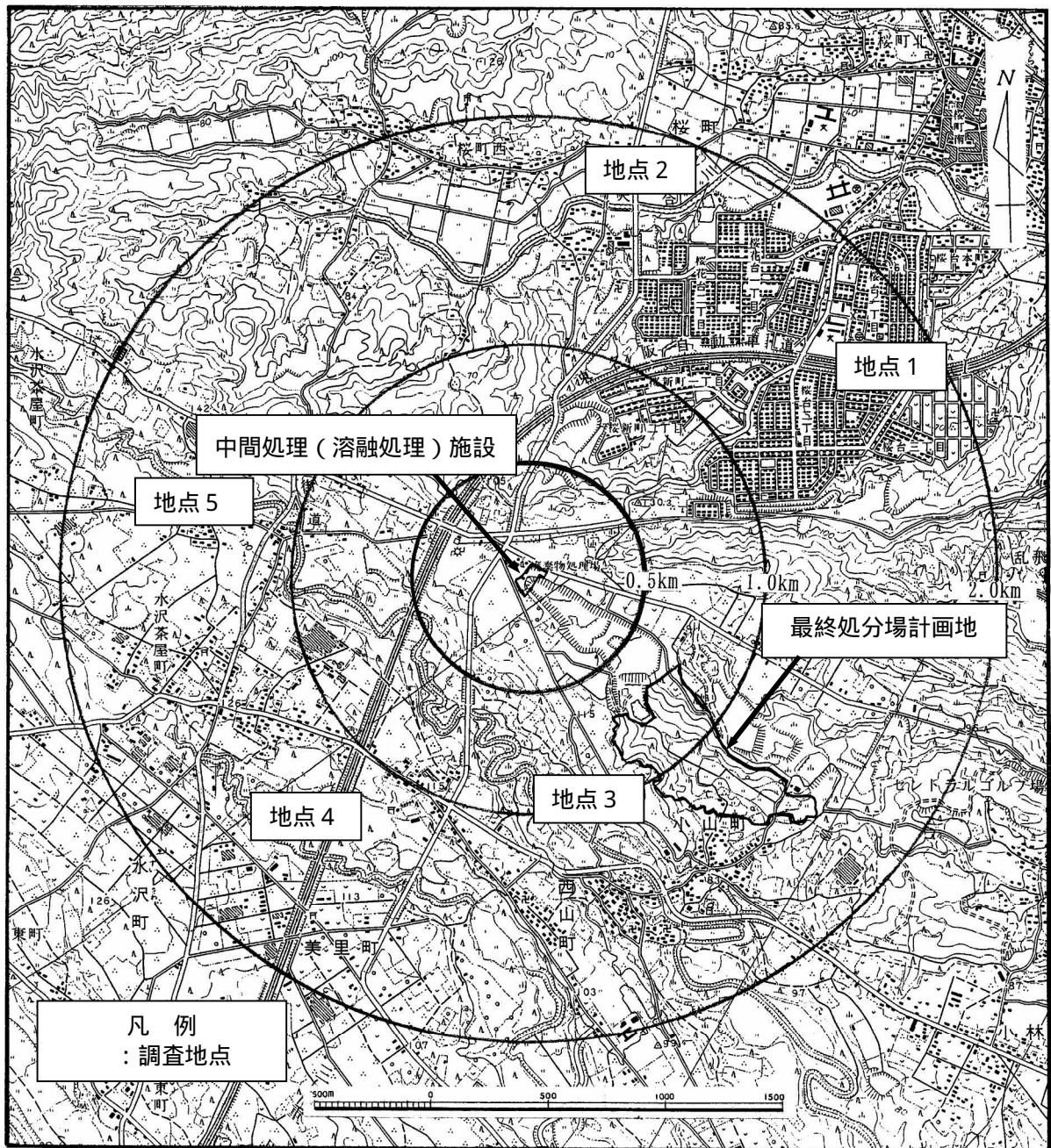


図 10 - 1 植物による大気質モニタリング調査地点

第2項 調査結果

調査の結果、表 10 - 2 に示したとおり、いずれの地点の株も生育は良好であった。

なお、地点 3 で一部欠落がみられたが、生育状況は良好であることから人為的な影響によるものと思われ、本事業の実施に起因すると思われる変化はみられなかった。

表 10 - 2 (1) ウメノキゴケ等調査結果

時季	地 点	生育木	大きさ (cm)	色	細 胞	備 考
春季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	2	ケヤキ	7.0×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	8.0×10.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	一部欠落がみられるものの、生育状態は良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化は著しいが、樹皮の落下に伴う欠落は少なく、「点在して生育」しているものが、まとまりになりつつある 生育状態は良好
	5	スギ	3.5～2.8	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
夏季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	2	ケヤキ	7.5×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	8.0×10.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	春季と同様、一部欠落がみられるものの、生育状態は良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化は著しいが、樹皮の落下はみられない。そのため、欠落も少なく、大きなまとまりになりつつある 生育状態は良好
	5	スギ	4.0～2.8	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好

：「欠落」とは、本種が他の要因（人為的、着生木の成長・老朽等）により剥離することを指す。

「崩壊」とは、大気汚染等、生育環境の悪化に伴い、細胞が崩壊することを指す。

表 10 - 2 (2) ウメノキゴケ等調査結果

時季	地 点	生育木	大きさ (cm)	色	細 胞	備 考
秋 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	2	ケヤキ	7.5×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	8.0×11.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	一部欠落がみられるものの、生育状態は良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化は著しいが、樹皮の落下はみられない。そのため、欠落も少なく、大きなまとまりになりつつある生育状態は良好
	5	スギ	4.0～2.8	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
冬 季	1	ニセアカシア	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	2	ケヤキ	7.5×5.5	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好
	3	アメリカフウ	8.0×11.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	一部欠落がみられるものの、生育状態は良好
	4	ソメイヨシノ	一面	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	着生木の老朽化は著しいが、樹皮の落下はみられない。そのため、欠落も少なく、大きなまとまりになりつつある生育状態は良好
	5	スギ	4.2～2.8	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	生育良好

：「欠落」とは、本種が他の要因（人為的、着生木の成長・老朽等）により剥離することを指す。

「崩壊」とは、大気汚染等、生育環境の悪化に伴い、細胞が崩壊することを指す。

第3項 まとめ

今回の調査の結果、一部の株の生育状況に、人為的や老朽化と思われる影響がみられたが、施設の稼働に伴う影響はみられず、生育は良好であった。